

トマト畑 から



第14号

店頭から米が消えるなんて!!

紅葉の季節が始まりました。さて農家の皆様は秋の収穫が終わり、ほっとしておられる頃でしょう。今年度は農協の米1袋(30k)の買取り価格が昨年の7,500円から10,000円超えとなりました。

しかし、世間では主食であるお米が店頭からなくなるというとんでもない状態が起こりました。原因をかんがえてみました。

コロナ禍の自粛強制で米の需要が減り、米が余りました。政府に余った米を備蓄米として買い上げるよう要求しましたが、しませんでした。結果、米1袋が4,500円に暴落したところもありました。

政府はミニマムアクセス米として年間70万トンを入力しながら、私たち農家には食生活が変わった、お米を食べる量が減った、主食米から飼料米に切り替えるよう、ついこないだまで言っていました。

この2年間、肥料代、生産費の高騰もあり、時給10円の米作りを強いられました。その結果、一気に離農や耕作放棄地が広がりました。

売るための米を作る農家は2000年の175万戸から2023年には58万戸に激減しました。もちろんお米の生産量は減り、食料品の価格高騰の中で米の需要が増え、今の米不足が起こりました。備蓄米を市場に出すよう政府に要求しましたが、しませんでした。

このことは、政府は米作りの責任を放棄していると私は思います。政府は戸別補償を止め、減反政策や減反補助金を止め、農家は市場原理の中に放り出されました。大切な主食の生産を守ることは、国民の命を守ることです。

主食が手に入らないという状態が起こらないよう政府は責任を持って農業政策を進めるべきだと思います。



こんな声聞いたよ

- (Aさん) 最近、赤旗日曜版を読み始めたが、介護のことでいい記事があり、切り抜いた。
- (Bさん) 町は文化芸術をもっと大切にしてほしい。
- (Cさん) 清流米の米価が今年はよかった。もっと早くこの金額になってほしかった。今まで行っていた仕事を辞めて先祖からの田んぼで米作りをしているが、収入がガタッと減った。やめたいがやめるわけにはいかない。
- (Dさん) トマト畑はわかりやすく書いてくれている。
- (Eさん) 頑張っって農業をしているが、後継者がいない。地域の農家がまとまって農地を守りたい。機械もむだなくなるし、みんなで助け合うのは心強い。
- (Fさん) 久万高原町に引っ越そうと思ってホームページを調べると、久万高原町は子育て支援が充実していた。もっと宣伝すればいいのに。
- (Gさん) 移住してアグリピアで研修し、トマト農家になった。地域の人も親切でずっとここでやっていきたい。アグリピアの研修制度をもっとPRしたら、農業をしたい人がもっと来ると思う。

委員会での発言

- (問) 避難所の開設の件で、冷房設備がないので開設できないという発言があった。気温が高くなっている現状では避難所には空調設備を付けるという方向で考えるべきではないか。
- (総務課長) **災害の状況によっては開設できない避難所もある。空調設備は理事会で協議したい。**
- (問) 令和5年度分の精算により、介護給付費等の返還金の説明があったが、返還金の額がかなり多い。もらいすぎた分を返還するということが、介護保険料が高いという声を聞くのでこれだけ余るのであれば、今後介護保険料の額を見直すことはできないのか。
- (保健福祉課長補佐) **お金が余ったからといって1号被保険料に充てることは法律上できない。余ったお金は積立金に充てられ、何か支出が出た場合はそこを取り崩して3年間使わせていただく。**
- ★私の質問への答弁になっていないのでは?

9月議会での私の一般質問

◆南海トラフ地震の対応について

(町長) 発災後すぐに対策本部を立ち上げ一人でも多くの人命救助に努める。

(問) 8月、政府は初めて「南海トラフ地震臨時情報」を発表した。この地震はとてつもない破壊力が予測されている。破壊力から住民の命を守るのは、町の防災マニュアルでは自助7、共助2、公助1となっているが、町としてどう対応されるのか。

(町長) 直ちに対策本部を立ち上げ、情報収集、災害対応の確認、注意喚起をした。

阪神淡路大震災の際、助かったのが7割は自助で、公助というのは救急車が出動し救助できたのはわずかだったという意味だ。

(問) 防災マニュアルに昭和56以前に建てられた家は耐震診断が必要と書かれているが、昭和56年以降に建てられた家でも希望者へは耐震診断が受けられるようにするべきではないか。また、診断改修募集予定数をもっと増やすべきではないか。

(建設課長) 交付要綱で定められているため増やせない。旧耐震法以前に建てられた住宅は早急に診断を受けてほしい。

(問) 私の居住地の避難所は壁にひび割れが多く、住民も心配している。安全対策をどのようにすすめるのか。

(総務課長) 耐震基準に満たない建物もあえて避難所に指定している。それは地震以外の災害時に開設するためだ。

(問) 消防署の丁寧な講習により心肺蘇生法を身につけることができ、2回実施する機会があった。問題は夜間の場合AEDが手に入らないことだ。AEDを夜間でも使える方法はないか。

(消防長) AEDは温度、湿度、盗難を考慮し屋内設置となっている。夜間にはガラスを割って持ち出すようお願いしている。今後全国の事例を調査していきたい。

(問) 北海道胆振東部地震で、発電所が壊れ、全域で大規模停電（ブラックアウト）が発生した。南海トラフ地震で停電のため冷房のない避難所も出てくるかもしれない。外部電力が喪失された時、久万高原町独自の電力供給をどのように考えておられるか。

(総務課長) 町では蓄電池の整備を進めている。夏場の冷房は困難だが、扇風機は使える。また、避難所には計画的に発電機も整備している。

(問) 能登半島地震では、上下水道管路の耐震化がされておらず、長期間の断水の原因となった。久万高原町としても耐震化をどう進めるのか。

(総務課長) 水道管の耐震基準は今後検討する。町では防災センター横の貯水タンクに飲料水を貯水しており、ペットボトルでも確保している。手動浄水器も活用しながら対応していきたい。

(問) 能登半島地震の復興の遅れの要因としてマンパワーの不足が指摘されている。市の職員も国交省の職員も減っているとのことだ。職員が少ない人数で不眠不休で働いていて見ていて涙が出たという報告がある。マンパワーの確保にどうされるか。

(総務課長) 県内市町村、民間事業者と相互応援の協定を結んでいる。広域防災体制を充実させたい。

(問) 個人の出来ることには限界がある。自助7、共助2、公助1と書かれていたが、公助の必要性の大きさを感じる。誰一人亡くならないよう取り組みを願っている。町長の意気込みをお聞きしたい。

(町長) 身の危険を感じたら自分で守ることが大事だ。もちろんその前には公助も懸命に頑張りたい。貴重な提案を糧に更に防災力を高めたい。

おわりに

介護保険制度は重要な制度であるのに、私自身、介護保険料や介護給付費のしくみについて理解不十分です。今後しっかり勉強していきたい。

衆議院選挙が終わりました。

自民党の裏金にノーを突きつけた国民の審判は与党を過半数割れに追込みました。裏金問題、2,000万円支給を暴いたのは「しんぶん赤旗」です。

残念ながら、日本共産党は

10議席から8議席と減りましたが、「大企業優先ではなく国民の生活を！」「外交による平和を！」を大切に頑張ります。今回の選挙でのご支持、ご支援ありがとうございました。ぜひ「しんぶん赤旗」日曜版をご購読下さい。

